

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ①: 震災からの復興

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	これからは、被災地のメンタルケアなど、ソフト面でのサポートが続けて必要になってくると思います。	災害に伴うメンタル面での様々な影響は、遅れて発生したり、繰り返し出現することもあるため、長期的な支援が必要だと考えており、今後も家庭訪問や電話相談、健康講座の開催など被災者に対する相談支援事業を引き続き実施してまいります。また、新たな場で生活再建をされた方々に対し、人と人とのつながりを大切にした支援を継続的に行ってまいります。
2	沿岸部に人が集まる施策を推進してほしいです。東部エリアのにぎわいづくりはまだまだこれからの課題だと思います。	東部沿岸部の集団移転跡地利活用については、各地区の特性を活かしながら、民間が自由な発想で自ら取り組む「新たな土地利用」を進め、沿岸部の「新たな魅力」を創出していくものとしています。 平成29年度に集団移転跡地の利活用を希望する事業者の第1次募集を行い、これまでに9事業候補者を決定しました。 また、空き区画で事業者の第2次募集を行い、平成30年度末に事業候補者の決定を予定しています。 平成31年度は、土地の造成工事などを行い、事業者が早期に事業に着手できるよう取り組んでまいります。
3	これからは、やはり震災の記憶を伝えていくことが特に大きな鍵を握って行くと思います。震災遺構の保存やメモリアル交流館の運営にこれからも力を入れていただきたいです。また、新しい技術であるVR等で体験できるようなものがあれば、しっかり伝わるのではと思いました。	今後とも、多くの方にご来館いただけるよう、震災遺構やメモリアル交流館の運営に力を入れるとともに、展示、企画に工夫を凝らしてまいります。 なお、VR等につきましては民間企業が、荒浜小学校や荒浜地区におけるVRを用いたツアーを開発しており、仙台市としてもこういった取り組みに協力しながら、より伝わる、魅力のある見せ方も模索して参りたいと思います。

テーマ②: 子どもの学び

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	子ども体験プラザはぜひ子どもに体験させたいと思いました。1回きりでなく、やったことの経験を活かして2回・3回とできたらより学びが深くなるのでは。	複数回体験を行うことで、より深く考えたり、力がついたりすると思われませんが、全ての市立小中学校が実施をしていることもあり、各学校で2回の実施予定を組むことは難しい状況です。 しかしながら、小学校では地域のお店を活用した「弟子入り体験」や中学2年生での職場体験活動など、繰り返し働く意義等について学ぶ機会の確保に向け工夫しているところです。
2	たくましく生きる力育成プログラムについては、保育所、幼稚園でも取り組んでもらうのはどうでしょうか。	平成30年3月に策定した「仙台市幼児教育の指針」においても、基本方針の中で小学校や中学校で取り組んでいる「たくましく生きる力育成プログラム」を考慮しながら、「たくましく生きる力」の基礎となる知恵や態度を育むこととしております。
3	地域、社会と連携して子どもたちの夢をかなえることができるように、もっともっとボランティアや企業に協力していただいて発展してほしいと思います。地域への愛着をより持たせられるようになると良いし、保護者も一緒に子どもの学びに関われるよう、学校からの発信が増えると良いと思います。	仙台自分づくり教育は、保護者はもちろん、地域や企業の方々の協力があって推進できるものでございます。これまで、外部有識者、仙台商工会議所や宮城県中小企業家同友会等の経済団体の協力をいただき、「自分づくり教育応援団」を立ち上げ、官民一体となり推進してきました。 今後も市民、企業の皆様のご理解・ご協力を得られるよう、企業の方や一般市民の方にも参加していただく講演会等の機会やホームページを活用するとともに、自分づくり教育の活動とその成果を広く発信してまいります。
4	視野を広げたり学びを深くするために、子ども体験プラザなど職場体験の回数を増やすのはどうでしょうか。小6でスチューデントシティ、中1で校外学習、中2で野外活動・職業体験、中3でフィナンスパークと各々がうまく連携していくとよき成果が上がると思います。	子ども体験プラザや職場体験活動で学習したことが、子どもたちの中でつながっていくことは大変重要であると考えます。運営上の課題から、活動回数を増やすことは難しい状況ではございますが、今後も、各学校におきましては、小学校での地域の商店調べ、高学年での弟子入り体験、スチューデントシティでの体験、それを踏まえての中学校での野外活動、職場体験活動、フィナンスパークなど、小中学校9年間を見通したカリキュラムを作成し、その実践に取り組んでいるところです。 今後も、校種間や事業や校種間の連携を図り、子どもたちのたくましく生きる力を育ていけるよう努力してまいります。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ③: 高齢者

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	地域の支え合いをする上で中心となる場所、団体の情報を集約した方が良いと思います。	地域支え合いの活動拠点や団体等に関する情報については、必要な方に提供できるよう、収集・整理を進めてまいります。
2	人口減少に伴うスーパーなどの撤退を心配しており、買い物難民になることに不安があります。終の棲家をどこにするか不安視する世帯が増えており、各種施設の利用選択の目安情報が少ないと思います。	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、多様な生活支援サービスが提供されるような体制づくりや、高齢者が自らの身体や生活状況を踏まえたふさわしい住まいを選択できるような情報提供等に取り組んでまいります。
3	高齢男性の地域サークル・ボランティアなどへの参加呼びかけや、高齢者のお祝い会などへの積極的な参加促進が必要だと思いません。	社会参加は生きがいや健康づくり、生活の質の向上にもつながるものであり、今後も多様な社会参加の機会を充実させる等必要な支援について、取り組みを進めてまいります。
4	高齢者が老いを受け止めることにも目を向けて、健康寿命を延ばすための動機づけも必要だと感じました。	ご本人の自主的な取り組みの動機づけとなるよう、各種イベントや講座、介護予防教室などの開催や、医療機関の窓口に広報チラシを置くなどして、高齢期における介護予防・健康づくりの重要性について引き続き普及・啓発を図ってまいります。
5	高齢者の就労意欲をもっと高めていく政策を考えていただきたいです。それが健康寿命を延ばしていくことにもつながると思います。就労の情報についても集約してわかりやすくしてほしいです。	ハローワークやシルバー人材センター等とも連携しながら、高齢者が知識や経験・能力を生かし社会を支える一員として活躍できるよう、各種取り組みを進めるとともに、就労情報の提供等マッチング支援について検討してまいります。
6	介護事業所と地域とのつながりをサポートしていただけるような政策を考えていただきたいと思いません。	現在、介護関連施設や事業所におきまして、空きスペースを地域に開放し、高齢者の通いの場や介護予防・地域での支え合いをテーマとした講座を開催するなどの取り組みが行われています。今後もこうした取り組みを支援してまいります。
7	介護経験者が、これから介護が必要になる方へ伝授するような機会を設けるのもいいと思います。	同じ介護家族の立場で体験や悩みを話し合える場として「認知症カフェ」や「家族交流会」などを開催しており、引き続き、家族介護の不安解消に資する取り組みを行ってまいります。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ④：子育て支援

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	保育士の給与面・待遇面の大幅改善については仙台市だけの問題ではないので、国にかけあうのが必要だと思います。また、賃金以外の改善も必要だと思います。	保育士の処遇改善については、安定財源を確保しながら取り組むべき課題でありますので、今後とも国に対して必要な要望を行っていくということを基本としながら、本市の取り組みについても引き続き検討してまいります。 また、平成30年度からは、「保育士宿舎借り上げ支援事業」を実施しており、引き続き保育士の確保に努めてまいります。
2	病児、病後児保育や事業所内保育についても増やしていく必要があると思われました。	病児、病後児保育につきましては、今後利用状況等を踏まえながら必要に応じて検討してまいります。なお、民間の病児保育施設が近年増加傾向にあり、本市においても情報収集・発信に努めてまいります。また、事業所内保育事業については、企業からの提案に基づき、地域ニーズを鑑みながら整備を進めてまいります。
3	保育所を利用しない子育て女性のために、ぜひ託児付きワーキングスペースを設置してほしいです。	保育所を利用していない子育て世帯の方につきましては、本市として一時預かり事業などを実施しているところですが、各子育て世帯においては様々なニーズなどもございますことから、今後とも多様な保育サービスの充実に努めてまいります。
4	保育所の数が地域によって偏っているというが、ぜひ地域のニーズに合った保育所の数にしてほしいです。	保育所の整備にあたっては、就学前児童数や待機児童数の分布に基づき、「優先整備地域」を指定して、計画的に整備を進めております。
5	各施設が利用者のニーズに合わせて多様化したことに伴い、制度が複雑化しており分かりにくい印象です。文科省等の管轄の違いはあるかと思いますが、利用者にはその違いは重要ではなく、仙台市として分かりやすく制度を周知していただきたいです。	幼稚園、保育所等を希望する方向けのパンフレットやホームページなどを通じて制度の周知を行っているところですが、より分かりやすくご案内出来るように、今後も内容を検討してまいります。

テーマ⑤：低炭素都市づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	市民ひとりひとりが温室効果ガスをどれくらい削減したらよいか、わかりやすい数値目標を共有することが重要だと思います。温室効果ガス排出量が大きすぎて分かりにくいと思われました。	本市の温室効果ガス削減目標や地球温暖化対策につきまして、これまでもパネル展示等によりお知らせしてまいりましたが、ご意見も踏まえ、市民の皆さまに身近に感じていただけるような広報のあり方を検討してまいります。
2	屋上緑化や街路樹植樹の更なる促進など、CO ₂ 吸収量を“増やす”という視点での低炭素都市を実現する上でできることはまだあるように思います。	市街地のみどりは、夏場の温度上昇抑制や、それに伴う省エネと温室効果ガス排出量削減につながり、これまでも緑のカーテン普及や各種緑化助成制度といった取り組みを実施しているところです。CO ₂ の吸収源としては、これらに加え森林も重要であり、市民・事業者・行政の協働による環境保全活動や森林維持活動などに引き続き取り組んでまいります。
3	学校などを通じて、子どものころからエネルギーを使わないよう心がけることが、仙台市の今後にとって、とても良いことにつながると思われました。	小学校向けの環境学習プログラムによる学習機会の提供や、親子で参加できるイベントの実施を通じ、子ども達に省エネや節電について実生活の中で興味関心を持ってもらえるよう、継続的な啓発を進めてまいります。
4	知る機会を増やすことや、習慣化(ゴミの分別、節電、リサイクル等)させるような取り組みを国や自治体でする必要があると思えます。まずは、身近なものだと感じさせる資料と知る機会を作ることが大事だと思います。	大規模イベントにおけるブース出展や、ホームページ、SNSを活用した情報提供に努めていくほか、多くの方が楽しみながら参加できるキャンペーンを実施するなど、身近なところでの機会創出に努めてまいります。
5	仙台市が省エネ設備の導入を支援していることを、もっとPRしてほしいです。	「仙台市熱エネルギー有効活用支援補助金(Let's熱活！補助金)」につきまして、チラシや市政だより、市ホームページ等にてお知らせしております。今後とも、市民の皆さまへの丁寧な広報に努めてまいります。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ⑥：地下鉄東西線の開業

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	中心市街地での地下鉄とバス路線との競合は気になるところです。	交通局では、東西線の開業に際して、荒井駅や薬師堂駅、八木山動物公園駅等にバスが結節するよう路線の再編を行いました。しかしながら、バス路線は主に郊外から中心市街地に集まっていることや、中心市街地へ直通するバスへの需要があることから、地下鉄と経路が重ならざるを得ないのが実情です。今後とも、お客様のご利用状況を注視しながら、より効率的な運行に努めて参ります。
2	運行範囲の拡大をしたり、運行時間の延長をしてくれるとうれしいです。	地下鉄の運行範囲の拡大(延伸)については、多額の整備費用を要することや採算性の観点から困難であり、既存の交通施設を最大限に活用することが重要であると認識しております。また、運行時間の延長につきましては、今後、お客様の利用動向を注視しながら必要性について検討してまいりたいと考えております。
3	荒井のまちの発展規模が大きく広いので、「機能集約型まちづくり」といえるか疑問を感じます。	本市では、人口減少や少子高齢化の進展、また昨今の環境制約の高まりや厳しい財政制約の中で、持続的に発展を続けていくために、従前より市街地の拡大を抑制するとともに、都心や地下鉄の駅などを中心にそれぞれの地域特性に応じて、多様な都市の機能を集約する「機能集約型まちづくり」を進めてきたところです。荒井地区は東西線荒井駅からの徒歩圏を基本に新たな市街地を形成するものとしています。現在、住宅のほか様々な施設の立地が進むとともに、地下鉄利用者も増加するなど、機能集約型まちづくりは着実に進んでおり、今後とも取組みを推進してまいります。
4	イベントや駅ごとの特色を増やして乗車率を上げることが必要だと思いました。	東西線は、仙台のまちづくりの原動力となるものであり、その沿線の魅力・活力を高めることが重要と考えております。これまでに、沿線それぞれの地域特性に応じた多様なまちづくりが進んでおり、東西線の利用者も着実に増加しております。また、地下鉄東西線の利用が見込まれるイベントや、駅近隣の施設等とタイアップを行うことで、地下鉄の利用促進及び企業イメージの向上を図り、乗車率の向上に努めております。引き続き、沿線の魅力や活力を高めるための取組みを推進してまいります。
5	公共交通が中心となるまちの将来像を市民に意識してもらうことが大事だと思いました。	多くの市民に公共交通について考えて頂く機会を持ってもらうことが重要であると認識しております。貴重なご意見として参考とさせていただきますとともに、仙台市の交通施策の中心である公共交通について認識して頂ける様、せんだいスマート等の取組みを通じて努めてまいります。
6	沿線の市民だけでなく、多くの市民に利用してもらうための運賃などの見直しが必要だと思います。	icscaを使ってバスと地下鉄を乗り継いだ際にicscaポイントを付与する「乗り継ぎポイント」制度や、icscaの乗車履歴を利用したパーク&ライド優待サービス、レール&カーシェア(カーシェアリング料金の優待サービス)など、沿線にお住まいの方以外にも地下鉄を利用していただけるようなサービスを行っており、今後とも新たなサービスの導入について検討してまいります。
7	仕事(職場)・学業(学校)を地下鉄沿線に確保することが重要ではないでしょうか。	東西線沿線においては、沿線それぞれの地域特性に応じた都市機能の立地が進んでおりますが、業務施設や教育施設も含め、引き続き、駅周辺にふさわしい施設の立地誘導に努めてまいります。
8	JRとの連携強化をするのはどうでしょうか。	JR東日本との連携については、利用しやすい鉄道ネットワークを形成する観点から重要と認識しており、乗換案内など様々な連携方策を検討してまいります。
9	今まで利用していない人が実際に乗るような施策が必要だと思います。交流人口拡大に向けた取組みとの連携も視野に入れてみてほしいのではないのでしょうか。	地下鉄の利用促進においては、沿線の住民の方々だけではなく、仙台市を訪れる様々な方に地下鉄を利用いただくことが重要であると認識しております。地下鉄の利用促進に向けた検討の参考とさせていただきます。
10	地下鉄の情報が詰まったスマホアプリがほしいです。	地下鉄の利用促進に向けては、多くの方に普及しているスマートフォンを活用した情報発信が有効であると認識しております。今後の施策の参考とさせていただきます。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ⑦: 交流人口拡大

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	仙台の観光PRという点に関しては魅力の創出が重点課題と感じました。	最近では、従来型の見る観光だけでなく、体験型観光の人气が高まっていることなどから、本市の新しい魅力の創出を重要な課題ととらえ、「交流人口ビジネス活性化戦略」において、重点プロジェクトの一つとして取り組んでまいります。
2	仙台市内の活用していない地域があるのではないのでしょうか。体験型観光のためには、仙台市内の限界集落まで市内の資源ととらえて、分かりやすいもの、利用しやすいものばかりを観光資源、交流資源にしてはいけないと思います。	本市は、東北の中核都市としての都市機能のほか、自然や食、祭り、伝統文化など豊かな資源があるものと考えており、「交流人口ビジネス活性化戦略」に基づき、様々な視点から資源の発掘、磨き上げに努めてまいります。
3	観光客が頭打ちになっているのではないかと感じました。観光地へ求めるニーズの多様化に合わせた様々なコンテンツの“発信”を仙台市として行ってほしいです。	人口減少社会を迎え、国内観光客数が横ばいとなる中、歴史や文化、食のほか、アニメや漫画など様々なニーズへの対応が重要になることから、ターゲットを明確化し、多彩なコンテンツを活用した効果的なプロモーションに努めてまいります。
4	目標に対する成果が数値化されていて分かりやすいですが、数値では見えない実態としての満足度調査もあるとよいです。	本市では、観光客の属性や訪問先のほか、満足度などを測定するため、平成27年度に観光客動態調査を実施しております。今後も様々な事業を実施する中で、旅行者の皆さまのニーズや満足度の把握に努めてまいります。
5	SNSなども活用しながら多くの人に情報が届く仕組みづくりをしてもらいたいです。	本市の観光情報につきましては、観光客向けのHP「せんだい旅日和」を運営しているほか、FacebookなどのSNSを活用した情報発信に努めております。また、インバウンド向けに多言語でのSNSの発信なども行っており、今後もより多くの方々に仙台の情報が届くよう、取り組んでまいります。
6	交流人口拡大の目的が経済増なら、観光よりも住みやすい仙台まちづくりに力を入れてもよいのではないかと思います(仙台は住みたい町全国上位なので)。	仙台市においても近い将来人口減少が見込まれる中、経済の活性化や交流人口の拡大など、どのように都市の活力を維持・向上させていくかは大きな課題です。それとともに、子育て・教育環境の充実や、高齢者がいきいきと暮らせる取り組みの推進など、住みよいまちづくりを進めることで、居住地として選んでもらえるまちを目指してまいります。
7	新しい戦略における重点プロジェクト「日本一の体験プログラム創出」は良いと思います。仙台といたらこれというものがもっと欲しいです。	仙台ならではのコンテンツや他都市に先駆ける新たなコンテンツを発掘・創出していけるよう取り組んでまいります。
8	インバウンド客に向けて、官の施設だけでなく、民間の施設(宿泊・飲食)の英語、外国人対応を充実させるとよいと思う。	インバウンドに向けては、受け入れ環境の整備が課題の一つであることから、民間の施設向けに、外国人の国・地域ごとの嗜好や習慣等も含めた接客講習を行うなどの取組みを行っております。今後外国人観光客の増加が見込まれることから、様々な国籍の方が快適に滞在できる環境づくりに努めてまいります。
9	仙台=東北の玄関口として、東北各地の観光地や名所等へスムーズにつなぐ、又は興味関心に合わせてツアー等を紹介する機能を充実させてほしいです。	平成29年度から、東北の観光案内所のネットワーク化を進めており、仙台を含む東北の観光案内所ではスカイプやチャットワークを活用し、広域観光案内の提供やタイムリーな情報の共有を行っております。平成30年度からは、東北の28都市32箇所の観光案内所の連携とネットワークを拡大し、仙台から更なる東北周遊促進を図ってまいります。
10	プロスポーツ、アウェーチームのファン・サポーターの誘致や、来やすい来たいと思う交通手段等の連携が必要だと思います。	プロスポーツ観戦や様々なスポーツ大会への参加など、スポーツを目的に本市を訪れる方々をターゲットとした旅行商品の造成や交通機関の案内のほか、観光情報の提供などにも取り組んでまいります。
11	仙台市や宮城県に関連した作品、作家、等歴史の中を切り取りアプローチしてほしいです。交通機関と連携し、細かいところを拡大して広告して行ってほしいです。	仙台市や宮城県にゆかりのあるコンテンツを活用したまち歩きマップの作成など、特定のテーマに基づく情報発信を行ってまいります。また、るーぷる仙台をはじめとする交通機関等とも連携し、旅行者の周遊を促進する取組みも引き続き実施してまいります。
12	閑散期の取り組みが重要であると感じました。民間企業も巻き組みながら国内旅行者、コンベンション企画者、それぞれの立場に立った視線でアピールをしていくと良いのではないのでしょうか。	閑散期の誘客や宿泊を促進するため、平日やオフシーズンの魅力向上及び情報発信の強化が重要であると考えており、旅行者のニーズに合わせたコンテンツの創出やプロモーションに取り組んでまいります。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ⑧: 若者定着・仕事

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	知っている人しか知らない情報(グローバルラボ仙台の活動など)があり、もっと幅広く情報を発信すると良いと思います。IT業界を目指す人にはとても良い政策と思いました。IT業界以外にもこういったものはないのかな?と思いました。	経済局の事業について、市民の皆様に幅広く情報発信できるよう、市のホームページやSNS等の活用方法について見直しをしてまいります。 IT分野も含めた起業・創業支援策として、先輩起業家などによる集中レクチャーやプレゼンテーションイベントを開催しています。
2	地元企業の魅力を発信する「WISE」の製作にあたり、仙台市・宮城県の企業から協賛金をいただいてページ数を増やし、多くの方に配布してほしいです。	「WISE」については、2015年からWEBサイトを開設し、冊子以外の広報も行っております。学生が活用する媒体が冊子からWEBサイトに移行してきていることから、WEBでの発信を強化するとともに、ご提案のあった協賛金をいただき事業内容を充実させることも検討してまいります。
3	東京の下位互換ではない、仙台ならではの魅力がどうしても必要です。仙台の良さや仙台だとこんなことができるというアピールをすると良いと思います。たとえば首都圏だと下積みからだけど仙台だとすぐに戦力としてくれる!とか、そういうアピールができるが良いと思います。	「WISE」や「仙台で働きたい!」など、本市が行う情報発信事業の中で、仙台の良さ、アピールポイントを工夫して発信してまいります。
4	地元の経営者の意識改革をしていくことが必要だと思います。仙台は住みよいといわれているので、もっとアピールすべきだと思います。	地元経営者の意識改革としては、これまで事業者向けセミナーを実施してきております。また、仙台の都市の魅力については、「WISE」や「仙台で働きたい!」などで情報発信をしてきておりますので、今後も継続してまいります。
5	アイデアソンとかを増やせば学生は集まると思います。人事部門がない中小企業も多いのでインターンで、学生を集めて学生が発表する場を設けるといいと思います。	仙台市内のIT企業を紹介する合同説明会や学生が参加できるハンズオン講座などを開催し、中小企業と学生をマッチングする機会を創出してまいります。
6	進路・就職指導に関わる教育関係者に向けた発信の工夫が必要だと思います。高校生・大学生へのヒアリングやアンケート、県外へ出た人、県外から戻ってきた人へのヒアリングを通じた、リサーチや分析、対策を行うべきだと思います。	これまでも大学や高校に対し情報発信をしてきましたが、学生へのヒアリングやアンケート調査の実施を含め、情報発信方法など検討してまいります。
7	商工会議所との連携、協調が大切だと思います。	これまでも商工会議所等関係機関と連携し事業を行ってきましたが、今後も関係機関との連携を図ってまいります。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ⑨：地域特性に応じた地域づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	中学校区レベルでの生活圏内での地域づくりはこれからだと思えます。参加したい人、やる気のある人が情報を得やすいように、地域情報ファイルを充実したり、担当職員の役割を明確化、推進することも必要だと思います。	ご意見のとおり、地域づくりに意欲のある方への働きかけは非常に重要なことだと認識しており、そういった方が地域づくり活動に参加しやすい、また行いやすい環境づくり等について、今後も引き続き取り組んでまいります。
2	区ごとに取り組んでいる事業とその進行状況が見えるようにしてほしいです。	ホームページや市政だより等で機会をとらえたお知らせを行っているところですが、情報発信の充実についてさらに検討してまいります。
3	市民協働などの方向性は正しいが、まだまだ浸透していない面があるのではないかと思います。	本市では、協働の基本理念などを定めた「協働によるまちづくりの推進に関する条例」を平成27年に制定し、市政だよりなどを通じて、市民の皆様にお知らせしてまいりましたが、少子高齢化が進展する中、地域課題の解決をこれまで以上に進めていくためには、より多くの方々に協働についての理解を深めていただく必要があると考えております。そこで、協働の進め方などをまとめた手引きや、市内の協働による取り組みを紹介する事例集をこのたび作成し、ホームページなどで市民の皆様にご案内しておりますが、今後もこれらを活用しながら、協働の考え方などについて浸透を図ってまいります。
4	地域づくりの中心となる場所をつくり、情報集約やよろず相談ができるといいと思います。その地域の市民が集まりやすい場所や、利便性のあるところで各団体が連携するイメージです。ショッピングセンターもいいかもしれません。	地域協働拠点としての区役所の機能強化を図るほか、地域に身近な拠点として、市民センターのコーディネイト機能を活かした地域づくりの推進に取り組んでおり、引き続き、きめ細かに支援する体制の充実強化に努めてまいります。
5	荒巻包括ケアモデル事業の子どもバージョンがあると良いと思います。子ども・若年層の政策を増やした方がいいのではないのでしょうか。また、高齢層と若年層のつながりがあまりないのも気になります。	地域課題や住みよい地域づくりには多岐に渡る分野が関わることから、子育て関係課や高齢者関係課と相互に連携を進めます。
6	ウェブの有効活用をするなど積極性が需要ですが、同時に高齢化対策なども検討してほしいです。サロンの活動の活発化も必要なのではないでしょうか。地域ごとの共通課題を整理しながら、包括的な取り組みを組織的に展開することが必要なのではないかと思います。	ウェブ上での情報発信性を高めるため、地域活動に関する情報をまとめたウェブサイトを新たに立ち上げるなどの取り組みを行います。サロンのような活動は各地域において実施しているところですが、市としても、地域の取り組みをより一層推進できるよう、施策検討を行ってまいります。
7	住民の声を顕在化する仕組みがほしいです。住民同士で解決できる地域課題もあると思うので、小さな悩みを共有できる場があると良いと思います。	住民同士で情報共有や、より良い地域づくりのための話し合いが行える身近な場の一つとして、町内会が挙げられますが、その円滑な運営を支援するための取り組みを進めてまいります。
8	仙台七夕などの大きなイベントだけでなく、地域づくりにつながるイベントも必要だと思います。	平成31年2月に、地域づくりに活発に取り組む活動団体を集め、活動発表を行う交流会の開催を予定しております。今後も、地域づくりに興味のある方や活動者を対象としたイベント等の開催を通し、機運醸成を図ります。

平成30年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ⑩：地方分権・大都市制度

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	市の人口が減っていくのが残念です。周辺地域を巻き込んで生き生きとしていくべきだと思います。	定住人口の減少が見込まれる中、交流人口拡大に向け、観光分野における広域的な取り組みを強化するなど、東北の中で唯一の指定都市として、周辺市町村とともに持続的な発展ができるようまちづくりを進めてまいります。
2	仙台の住みやすさをもっと前面に出して政策を立ててほしいです。	子育て・教育環境の充実や、高齢者がいきいきと暮らせる取り組みの推進など、仙台の住みやすさにつながる施策も積極的に発信してまいります。
3	国の制度が関係する話なので、簡単には進まないと思いますが、地方分権が必要な理由をしっかりと提示し、財源や権限の移譲についてもっと国に働きかけるべきだと思います。	地方分権改革は、国が全国一律で政策を決定する体制から、地域の実情に応じた対応ができる社会を目指すため必要な取り組みです。ご提案頂いたご意見も踏まえ、今後とも市民の皆様に対して地方分権の取り組みを積極的に発信するとともに、引き続き、指定都市市長会などと連携し、必要な権限や財源の移譲に向けて国に働きかけてまいります。
4	仙台市としても大都市制度のグランドデザインを示すべきではないか。	次期総合計画の策定に合わせ、仙台市として目指すべき大都市制度のあり様についても検討してまいります。
5	大都市として他の地域に力を貸さなければならないと思いますが、その前に自分(市)のことは自分(市)で守ることも考える必要があると思います。	東北の中で唯一の指定都市として、周辺市町村とともに持続的な発展ができるよう連携を強化していくとともに、人口や産業が集中し高度な都市機能が集積していることによる大都市特有の課題にも対応するため、引き続き必要な事務権限や財源の移譲を進め、更なる行政サービスの充実に努めてまいります。
6	他の都市とも比較し、仙台にしかない特性をつくるべきだと思います。仙台の人口を増加させる政策を一番に考えたほうが良いと思います。	若者の地元定着などに力を入れ、減少の速度を極力抑制していくとともに、伊達文化などの歴史遺産や杜の都に代表される豊かな自然等の仙台にしかない特性を活かしながら、人が多く集まるまちづくりを行ってまいります。